

減量手術の効果と手術適応

● 減量手術の効果

減量手術によって得られるものは、実は体重減少だけではありません。以下のように多くのものが知られています。

➤ 体重の減少

平均すると術前 120kg から術後約 1-2 年で 80kg に低下します。

➤ 糖尿病など健康障害の改善

多くの患者さんで、インスリンを含む抗糖尿病薬、降圧薬、高脂血症薬などが不要もしくは減量できます。また、相当数の患者さんで、糖尿病・高血圧・脂質障害が寛解します。さらに、近年増加している脂肪肝や睡眠時無呼吸症候群も改善・寛解します。

その他、変形性膝関節痛や腰痛などの整形疾患の症状の改善はもちろん、不妊で悩んでおられた女性が術後に出産された経験もあります。

➤ 寿命の延長

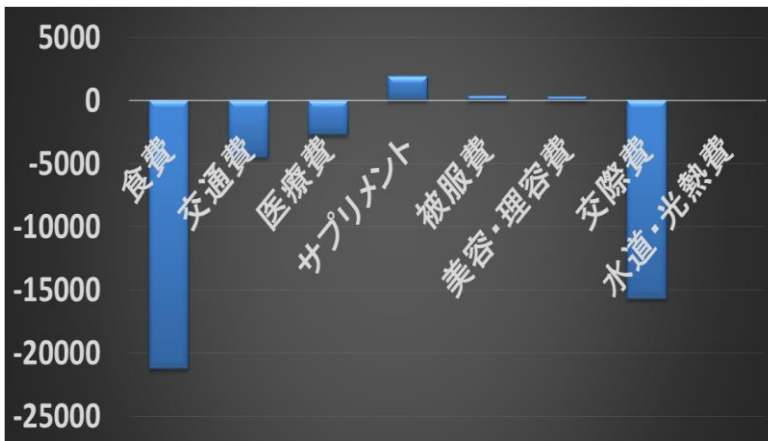
手術は、肥満に伴う健康障害を改善あるいは治療(寛解)することができるため、手術により寿命が延長するという研究結果も出ています。

➤ 生活の質の改善

「手術で私は生まれ変わりました」と、多くの患者さんから喜びの声を頂いています。

➤ 生活費の軽減

医療経済学者との共同研究で、手術前に比べ術後の生活費が1ヵ月に4万円軽減したことがわかりました(下図)。データには個人差があり、現在、国内の多施設共同研究で減量手術の費用対効果を検討しています(UMIN 試験 ID:UMIN000033705)。



柿原 他, 肥満研究, 2013 より

- **手術が必要な高度肥満症と肥満を伴う糖尿病**

肥満症に治療の基本は、食事・運動療法による内科的治療ですが、これまでの研究から、

1. 高度肥満症($\geq \text{BMI}35\text{kg}/\text{m}^2$)

2. 肥満を伴う糖尿病

については、外科手術が必要であることが、明らかになっています。現在、我が国の保険診療で手術が受けられる条件は、 $\text{BMI}35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上の高度肥満症であり、詳細は以下の通りです。

- **手術適応**

当院においては基本的に、日本肥満症治療学会のガイドライン(2013 年版)の手術適応を採用しています。

手術適応となる肥満症患者さんは年齢が 18 歳から 65 歳までの原発性(一次性)肥満であり、内科的治療を受けても十分な効果が得られず、次のいずれかの条件を満たすもの。

1. 減量が主目的の手術(減量手術)適応は、 $\text{BMI}35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上であること。

2. 併存疾患(糖尿病、高血圧、脂質異常症、肝機能障害、睡眠時無呼吸症候群など)治療が主目的の手術適応は、 $\text{BMI}32\text{kg}/\text{m}^2$ 以上であること。

ただし、保険診療による「腹腔鏡下スリープ状胃切除術」を受ける場合は、 $\text{BMI}35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上であることに加え、糖尿病もしくは高脂血症もしくは高血圧もしくは睡眠時無呼吸症候群を持病に持っていることが条件となります。

減量手術でストップ・ザ・メタボリックドミノ



伊藤 他より改変して引用